

うきたむ

第40号

2013.1.10

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館館報

山形県東置賜郡高畠町大字安久津 2117 TEL 0238 - 52 - 2585
FAX 0238 - 52 - 4665



▲ 米沢館山城遠景

米沢館山城

当館館長 佐藤鎮雄

「伊達政宗が生まれた米沢城はどこか」―「戦国末期の伊達氏の本城はどこか」ということは、置賜地方の歴史においても、伊達氏の歴史研究においても大変重要な課題です。

これまで仙台伊達家に残る「伊達家治家記録」はじめ古文書や「米沢地名選」「米沢鹿子」など江戸期に書かれた古文書などから米沢城＝松岬城説、米沢城＝館山城説が、中世史研究者・郷土史家によって唱えられ論争決着をみずの状態にありました。

ここで問題なのは「伊達家治家記録」等の伊達文書は当時の記録に基づいて仙台藩政時代になってから編集されていますが、「米沢地名選」等の古文書は上杉藩政時代に書かれています。江戸時代の領国を考慮すると正確さを欠いているのは当然です。

米沢市教育委員会では米沢城下も発掘していましたが、米沢城（松岬城）の発掘調査を昭和61年から行っています。山形県教育委員会も平成10・11年に発掘調査を行っています。また、米沢市教育委員会は館山町内の遺跡も発掘していましたが、平成13年には館山城北館を発掘調査しております。

その結果、松岬城と城下町からは伊達時代の遺構や遺物が発見されず、館山城と館山町内から遺構や遺物が発見されました。そこで、米沢市教育委員会では伊達時代の米沢城は館山城ではないかという説を打ち出しました。これは大きな波紋を呼びましたが、米沢館山城は15代晴宗以降の伊達の本城ですので、それ以前の本城である梁川城や桑折西山城、伊達政宗が米沢城から移った岩出山城や仙台城の立地・構造企画等を調べたら独自の立地選定や構造企画の特色が米沢館山城と一致することがわかりました。

これで戦国末期の伊達本城として国史跡をめざし、平成22年から発掘調査が進められております。数年後には国史跡として整備された状況を御覧いただけたと思います。19代政宗は人気の武将ですので、多くの見学者が訪れることでしょう。

中世やまがたの城館

―そこに城館がある理由―

平成24年10月2日～11月30日

前回の中世城館を扱った

当館の企画展から早10

年が経ちます。その間

に、少しずつ県内の中世

城館の研究は進展し、城

館に限らず中世に係る遺

跡等の調査事例が増えま

した。

今回の企画展では、近

年注目が集まっている城

館跡や中世期の遺跡か

ら出土した資料を中心

に、各方面で活

躍されている研

究者の助言を受

けて、考古資料

にとらわれない

展示を行いました

た。

展示資料中に

は、成島八幡宮

に伝わる伊達政

宗の名のある棟

札や、長谷堂城

の城門ではない

かと伝えられて

いる扉がありま

す。この伝長谷堂

城門扉については

山形大学地域教育

文化学部の永井康

雄先生により分析

が行われており、

その結果、年代的

にみて長谷堂城が

機能していた時代

の扉であることが

報告されています。

中世のお城の暮

らしを伝えるもの

として、鶴岡市にある

亀ヶ崎城跡から出土した

資料は当時の生活の様子

をうかがい知ることので

きる貴重なものが並びま

す。

例えば、茶の湯関連の

資料では、茶の湯は大名

や主な家臣のたしなみと

して普及していました。

瀬戸美濃の天目茶碗や漆

器の天目台、中国産陶器

の茶入れや金輪寺の蓋な

どは高級品です。

そして、なまり玉荷札

木簡は、慶長5年に亀ヶ

崎城将志駄修理亮宛てに

上杉方からなまり玉（鉄

砲玉）を送ったことを意

味します。慶長出羽合戦

の開戦を見越していたの

か、当時の状況を知るこ

とのできる貴重な資料で

す。

中世城館は領主（武

士）の居館であると同時に

領内の政治を行うところ

でもあります。人口の

多い場所が選ばれます

が、同時に戦を考慮した

防衛拠点も選ばれ、そこ

に適した城館が築かれる

ことになります。

10月2日から11月30日

までの期間中、3回の

ギャラリートークと、記

念講演会を開催し、多く

の方からご覧いただき、

大変好評でした。

12月6日より

テーマ展開展

例年冬季に開催し

ていましたテーマ展

「古代・中世の考古

資料」を、今年度は

12月6日より開展し

ております。

企画展示室がリ

ニューアルしてから

初めてのテーマ展で

あり、内容も若干の

変更を加えての展示

となっております。

3月末日までの展

示となりますので、

期間中にぜひご来館

ください。



▲ 展示の様子1



▲ 展示の様子2 (左奥:伝長谷堂城門扉)

第20回企画展 記念講演会
「中世やまがたの城館」

11月18日(日) 開催

11月18日に企画展を記念し、「中世やまがたの城館」と題しまして、山形大学の伊藤清郎先生をお迎えして講演会を開催いたしました。
研修室が満席になるほどの参加があり、その関心の高さを感じる講演会となりました。
午後からの講演会でしたが、午前中のうちから講演会の前に展示を見ようと、多くの中世・城館ファンが訪れ、熱心に展示に見入っていました。



▲ 講演会の様子

平成24年度 企画展図録

「中世やまがたの城館—そこに城館がある理由—」

好評です!

鎌倉・室町時代を中心に12世紀末葉から17世紀初頭までの城館を対象に、そこにお城が築かれた理由を、立地条件や時代背景から検討しています。

内容	
序章	中世やまがたの城と館
第I章	いろいろな城館
第II章	主要城館の築かれた理由
第III章	中世城館の人々の暮らし
終章	そこに城館がある理由
解説編	中世やまがたの城館



平成24年度企画展図録を頒布しております。
詳しくは当館までお問い合わせください。

平成25年1月20日(日)

2月3日(日)

3月3日(日)

時間…1時〜4時

場所…当館研修室

参加費…1回600円

(資料代)

第VII期うきたむ学講座を開催します。今年度は「歴史・民俗・生物から置賜を読み解く」と題しまして、置賜地域の多様な視点から地域研究の方向を考えていきます。
日程等の詳細は、当館までお問い合わせください。
(共催…うきたむ学実行委員会・事務局…当館)

うきたむ学講座 & 考古資料検討会

冬 季 講 座

「やまがたの考古資料検討会」を2月17日(日)に開催します。
置賜地域を中心に、県内で平成24年度に調査が行われた遺跡の中から、特に成果のあつた遺跡や注目される遺跡を取り上げて、報告をいただきます。
詳しくは当館までお問い合わせください。
(共催…山形考古学会)

平成25年2月17日(日)
時間…午後1時〜4時
場所…当館研修室
参加費…500円(資料代)

広大な大谷地の低湿地に存在した縄文時代前期のムラ

おんだし 押出遺跡

高島町大字深沼字押出

押出遺跡は現在の国道13号南陽バイパス、高島町と南陽市の境目の白竜湖にほど近い大谷地の中に営まれていた縄文時代前期を代表する低湿地遺跡です。

に営まれ水没した貴重な資料を遺した遺跡で、縄文のタイムカプセルといわれています。

炭からは常に泥水が滲み出してくる非常にじめじめとした場所です。

昨年度に引き続き、今年度も平成24年10月中旬から12月中旬にかけて、(公財)山形県埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われました。

排水路の改修による起因の調査で、今年度は昨年度調査が行われた沼尻堀の東側が調査対象になりました。

このような湿地帯の中の場所にムラを構えた押出の人々は、数多くの道具を現代に遺し、生活のあり方を垣間見せてくれます。

り、なじみの深い遺跡です。そして、出土資料のうち、千点以上の資料が国の重要文化財に指定されており、非常に貴重な資料が多く見つかった遺跡でもあります。

縄文時代の遺物が含まれる地層は、地表面から約2メートルほど下にあり、厚く堆積した泥

なかでも赤と黒の漆で飾った彩漆土器や、クツキー状の炭化食物などほかの遺跡でも類例の少ない貴重な資料です。5800年頃の短期間

調査による遺物の出土状況



▲ 調査による遺物の出土状況

我が館の展示品 (29)

奈良時代 ● 西町田下遺跡出土

新規 県指定文化財

手付有孔中空円面硯 (藤硯)

テーマ展で展示している西町田下遺跡(米沢市)から出土した中空円面硯が、このたび新たに県文化財に指定される運びとなりました。

うに内部が中空になっており、取っ手のようなものが付いていることが最大の特徴です。時代は7世紀後半から8世紀頃のものとして推定され、このような形状のものは現在発掘されている硯の中では他に類例がありません。

丸い形をしているものが一般に円面硯と呼ばれています。この硯はそのうちでも、ハソウのよ

出羽国外からの移入品ではないかと考えられています。



文書等を作成するために使われていたとみられる硯の出土は、当時のこの地域が律令行政に組み込まれ、公的な機関が存在していたことを推測できる貴重な資料の一つといえます。